

リオ+20における「ジャパンデー」

2012年6月19日

広報文化交流部総合計画課

「リオ+20」本会議初日の6月20日（水）を「ジャパンデー」として、東北地方の復興と日本の多面的魅力をアピールするセミナーと「ジャパンイブニング」を開催。

1 セミナー概要

- (1) 開催日時 平成24年6月20日（水） 11:15～14:30
- (2) 場所 ジャパンパビリオン 多目的スペース
- (3) テーマ 東日本大震災からの復興・教訓～持続可能な開発の観点から
- (4) 主催 外務省, 環境省

【第1部 11:15～12:30】(主催:環境省)

「復興を通じた持続可能な社会づくり～日本の再生を世界とともに～」

・講演①「GEA 国際会議 2011 成果物報告」

広中和歌子氏(地球環境行動会議(GEA)事務総局長、元環境大臣)

・講演②「震災復興を通じた持続可能性 —自然との共生—」

武内和彦氏(国連大学副学長、東京大学サステイナビリティ学連携研究機構機構長)

【第2部 12:45～13:35】(主催:外務省)

「東北の復興と持続可能な発展」

・講演①「福島復興発展への挑戦 —持続可能な産業と社会の形成に向けて」

柿崎隆夫氏(日本大学工学部機械工学科教授)

・講演②「宮城県名取市における海岸林再生の取り組み」

鈴木英二氏(名取市海岸林再生の会会長)

・講演③「UNEP International Mission to Tohoku, Japan, on Managing Disaster Debris」

マシュー・ガブ氏(UNEP 国際環境技術センター(IETC)所長)

【第3部 13:35～14:30】

・講演「The Revitalization for Japan -The Platinum Society-」

小宮山 宏氏(三菱総研理事長 東京大学総長顧問)

・ディスカッション/総括

<登壇者>

大木 浩氏(地球環境行動会議(GEA)相談役、元環境大臣)

荻野 博司氏(モデレーター:朝日新聞記者 地球環境プロジェクトリーダー)

2 「ジャパニブニング～TOHOKU FORWARD～」概要

- (1) 開催日時 2012年6月20日(水)
17:00～19:00(招待制)
- (16:30開場 公式プログラムは18:15まで)
- (2) 場所 ジャパンパビリオン/多目的スペース
- (3) 主催 外務省



(4) 協力 岩手県, 宮城県, 福島県, 国際交流基金, ブラジル岩手県人会, ブラジル宮城県人会, ブラジル福島県人会, リオデジャネイロ州日伯文化体育連盟, リオデジャネイロ日本商工会議所, リオデジャネイロ日伯文化協会, リオデジャネイロ日系協会/リオデジャネイロ日本人学校

(5) 内容

- 17:00 オープニング映像上映
玄葉大臣挨拶(予定)
リオデジャネイロ日本人学校と現地校の生徒からの応援メッセージを東北3県代表者に贈呈等
東北3県からのメッセージ
和太鼓パフォーマンス(サンパウロ和太鼓グループ「生」による演奏)
- 18:15 公式プログラム終了(予定)
歓談
- 19:00 イベント終了(予定)

*会場では、東北三県のPRブースの設置、東北の郷土料理、日本酒の紹介・提供が行われる他、東北の復興の現状を紹介する映像の映写や、東北六魂祭のバナーや七夕飾りなどの展示を行う。

【イベントコンセプト】 “TOHOKU FORWARD”

東北が「復興」に向け前に進んでいる姿を表現。東北の方々の忍耐強さ、希望を諦めない強靭さが“Forward(前へ、未来へ)”に込められている。

【揮毫】書家高橋卓也君(13才) 岩手県盛岡市出身、東日本大震災を経験。

3歳のときに書いた「凧」がモンリオール国際芸術祭にて、史上最年少グランプリを獲得。

<高橋君からのコメント>

「太陽の如く燃え盛る『Tohoku』、復興というゴールへの『Forward』をイメージした。東北に光が射すよう思いを込めた。」

【和太鼓グループ「生」(しょう)】

和太鼓「生」は日本とブラジルの文化的要素を持つグループ。特に太鼓を使って多様な文化、気質、健全な精神、協調性を養い、主に教育ツールとして音楽やエンターテイメント性を取り入れている。90年代に創設され、日本人、日系人などで構成されている。